

《地域医療情報NO44》速報

「愛知県地域医療構想推進委員会」が開催され(8/28)、県内9病院の『再検証』検討状況一覧が報告され、確認される！

8月28日令和2年第1回「愛知県地域医療構想推進委員会」が名古屋市内のホテルで開催され、県内各構想区域の委員会の委員長ら42名が参加し、「地域医療構想の推進に向けた公立・公的病院の役割の再検証について」を議題に、名指しされた9病院の「再検証」検討状況が報告されて確認されました。

9病院ともに、すでに明らかにされている2017年病床機能報告の病床機能から、現在までに変更、もしくは今後の方向性として2025年に向けての計画が報告されて、目新しい計画発表はありませんでした！愛知県全体では、地域医療構想による2025年必要病床数に対し、総数では病床が足りない状況であることと、病床機能区分では、回復期が大幅に不足し、高度急性期・急性期が大幅過剰と言う現状があり、今後の課題は、病床機能の適正化圧力が強まるものと予測されます。よって、名指し9病院だけの問題ではなく、各構想区域において、全ての病院の病床機能の計画・推移を注視して行く必要があります！

3 再検証要請対象医療機関一覧と協議状況

本県の再検証要請対象医療機関は、下表のとおり9医療機関である。

＜参考 県内9病院における再検証の検討状況＞

(令和2年8月28日現在)

	構想区域	医療機関名	協議状況
1	名古屋・尾張中部	中日病院	・急性期病床42床を、回復期病床に転換
2	名古屋・尾張中部	国立病院機構 東名古屋病院	・2018年に408床から330床に削減したことをもって、既に対応済であることを地域の関係者で確認 ・神経難病、重症心身障害児者、結核等の患者の受け皿としての病院の特性を確認
3	名古屋・尾張中部	ブラザー記念病院	・2018年に急性期30床を廃止済であることを地域の関係者で確認
4	海部	津島市民病院	・病院全体で440床を352床にダウンサイジング
5	海部	あま市民病院	・休棟45床を、回復期病床として再開
6	尾張西部	一宮市立 木曾川市民病院	・急性期病床90床を82床にダウンサイジングし回復期病床に転換
7	尾張北部	医療療育総合センター 中央病院	・2018年に110床から89床に削減したことをもって、既に対応済であることを地域の関係者で確認 ・障害者医療に特化している特性を確認
8	西三河北部	みよし市民病院	・急性期病床68床を、急性期病床34床及び回復期病床34床に転換
9	西三河南部西	碧南市民病院	・一定数以上の救急車受入実績を有する5病院(安城更生病院、刈谷豊田総合病院、碧南市民病院、西尾市民病院、八千代病院)で連携協定を締結 ・今後、人事交流や情報共有、機能分化について協議